

私は今日ワークショップに参加してみて、自分が質問された事に対して返答出来ないことを改めて実感し、このままではいけないと思いました。

すぐに返答出来なかったのは、普段から何か考える時に「分からないな、難しいな」で終わってしまっていたからだと思うので、これからは自分の考えを持ち、その考えの例外についても考えるようにしたいと思いました。

ワークショップの内容に関しては、まず最初のゲームで、廃炉には多くの人に関わっていてみんなで協力し合うことが大切だということが分かりました。

班での活動では処理水について考えたのですが、知っているつもりだったことをより詳しく知ることが出来ました。処理水を海に流すことによる人体への影響が少ないことは知っていましたが、処理水を海に流した時、1番多く被爆したとしても自然被爆の1000分の1だという話を聞き、とても驚きました。また、処理水を保管しておくためのタンクに1000億円以上のコストがかかっているという話も聞きました。これらのことを知り、今までは処理水を海に流すかどうかということを考えていましたが、処理水を海に流すことによる風評被害を無くすことについて考えなければいけないと思いました。

他の班の発表では、敷地を浄化した後に電線を利用するという考えがあることや、情報過多により正しい情報が分からないという問題を解決するためには、情報を受け取る側が知りたいと思う情報を企業が発信することが大切だということ、廃炉の問題は世代を超えて考えていかなければならないということが分かりました。2時間では時間が足りないと感じるくらい充実した時間を送ることが出来たので、今日のワークショップに参加して本当に良かったです。またこのような機会があれば積極的に参加しようと思います。